

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 病理試料を用いた肺クリプトコックス症における侵襲機序・病態の解明』
研究機関名 東邦大学医療センター 大森 病院
研究責任者 病理診断 科 職位・氏名 准教授・栃木直文

【研究の目的】

この度、東邦大学医学部病院病理学講座において「病理試料を用いた肺クリプトコックス症における侵襲機序・病態の解明」を実施することになりました。

真菌症は、真菌（いわゆるカビ）によって引き起こされる感染症です。後天性免疫不全症候群、悪性腫瘍、膠原病など免疫機能が低下している患者さんでは重症化することが知られています。昨今の医療の進歩は目覚ましく、移植医療の台頭、悪性腫瘍に対しての抗腫瘍薬の使用、生物学的製剤の自己免疫疾患等へのさまざまな疾患への適応の拡大といった化学療法の進化からも日和見感染のリスク要因は今後も上昇傾向を続けると考えられます。

クリプトコックス感染症は国内における在来病原真菌において唯一、健常者にも発症する深在性真菌症原因菌であり、輸入真菌症を除くと最も病原性が強く、「播種性クリプトコックス感染症」は「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」の五類全数把握疾患に規定されています。クリプトコックス 感染症はほとんどがクリプトコックスの胞子を吸入することでヒトに感染し、肺に病変を形成します。健常者に発生する場合を含め、肺の病変だけで留まる「肺クリプトコックス症」の状態が感染が制御されることも多いものの、免疫機能が低下した患者さんではクリプトコックス が髄液や血液を含めた全身に広がってしまう「播種性クリプトコックス症」を起こしてしまう場合があります。

このような病態を引き起こすクリプトコックス感染症は菌の病原性や感染を起こす患者さんの免疫機能の状態により、広いバリエーションがあり、どのように感染がヒトの体内で制御されているか完全に解明できておらず、病気の制御や治療をする上でも、病態の解明が急務であると考えられます。

この研究で得られる成果は、今後のクリプトコックス感染症の制御・治療を進める上で、重要な病態の解明につながり、真菌感染症の診断や治療法の改善につながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

1936年1月～2020年5月までに東邦大学医療センター大森病院において、肺の外科手術を受けた方と病理解剖を行なった方で、最終的に病理診断にてクリプトコックス症と診断がついたの方を対象として、手術や解剖で摘出した残余検体から肺クリプトコックス症の肺組織標本作製して、病理組織学的に検索を行います。また本研究では診療録（カルテ）から抽出したデータ（具体的には年齢、性別、BMI、基礎疾患、ステロイドや化学療法の有無及び採血検査のデータのみ）も解析対象としますが、個人を特定できるような情報を利用した解析は行いません。

なお、この研究は日本医療研究開発機構からの資金提供を受けて実施いたします。またこの研究に関わる研究者には大日本住友製薬株式会社からの研究寄付金の提供を受けているものがあります。この研究はこれまでに当施設で蓄積された病理解剖や外科手術による病理組織試料を用いた後ろ向きの観察研究であり、この研究と資金提供企業の製品に直接の関係はな

い、もしくは極めて軽微であると考えますが、利益相反状態を回避する方策として、原則としてデータ解析は、複数の研究者が相互にデータをチェックできる体制で行うこととします。

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター 大森病院 病理診断科

職位・氏名准教授・栃木直文/教授・澁谷和俊

電話 03-3762-4151 内線 3451